

# 《資料編》

- 1 いしかわ農業人材育成検討委員会委員名簿
- 2 いしかわ農業人材育成プランの策定経過
- 3 耕稼春秋について
- 4 新たな「いしかわの食と農業・農村ビジョン」の概要

# いしかわ農業人材育成検討委員会 委員名簿

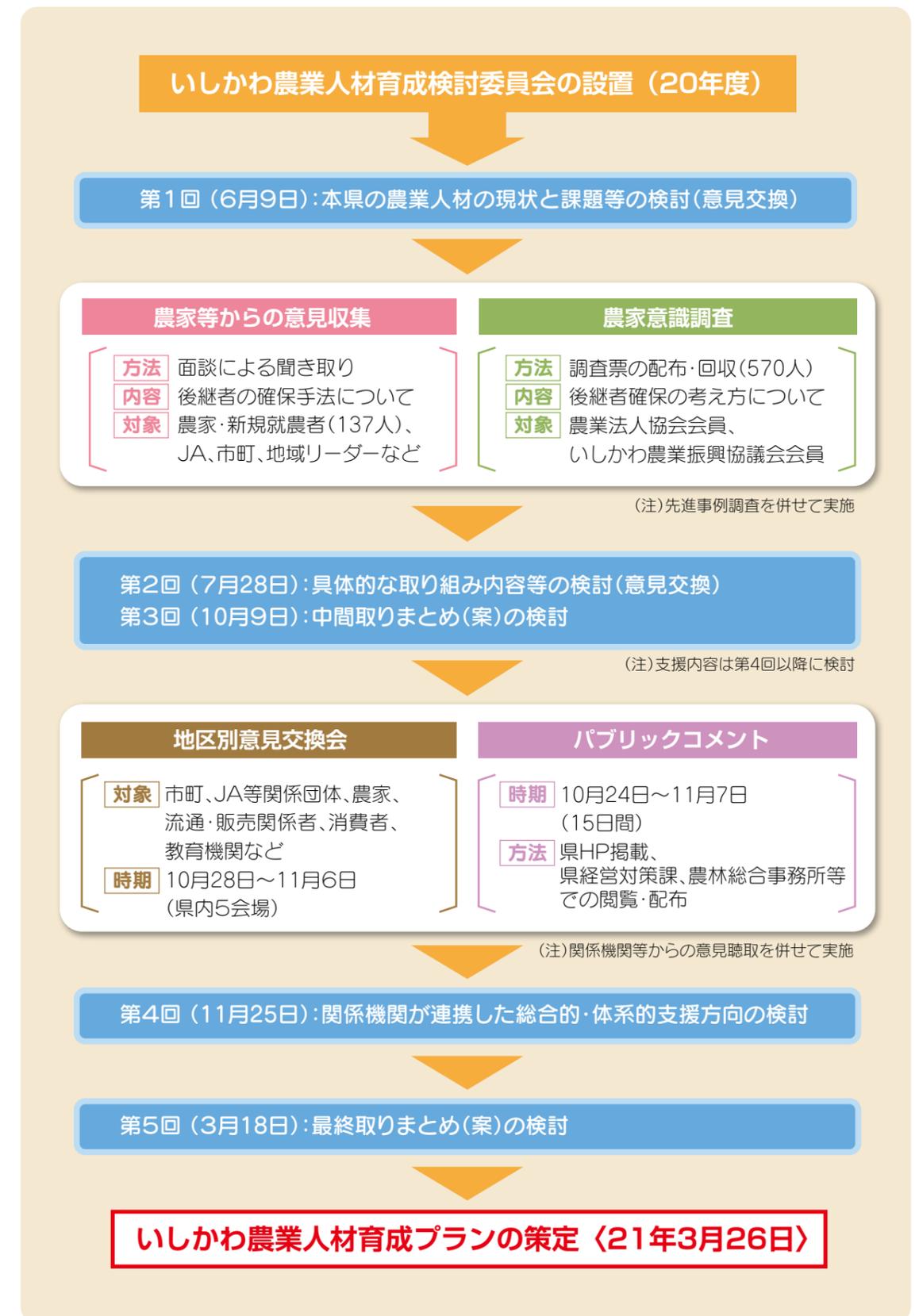
平成 21 年 3 月 18 日現在

◎：委員長、○：委員長代理

あん・まくどなるど	国際連合大学高等研究所 いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット所長
石井 和克	金沢工業大学 教授
○ 稲本 志良	龍谷大学 教授(京都大学 名誉教授)
植村 まゆみ	ジョブカフェ石川 エグゼクティブ・アドバイザー
岡嶋 啓介	丸果石川中央青果(株) 取締役主管(管理担当・兼経営企画部部长)
北村 歩	(株)六星(前(社)日本農業法人協会 監事)
楠田 大介	(株)パソナグループ 事業開発部農業プロジェクトチーム長
作井 吉幸	能登青翔高校 教頭
鈴木 誠	(株)ナチュラルアート 代表取締役
西井 秀一郎	石川県農業協同組合中央会 専務理事
松川 篤裕	(株)あきお 代表
松嶋 重史朗	いしかわ農業振興協議会 顧問
◎ 丸山 利輔	石川県立大学 学長

(五十音順、敬称略)

# いしかわ農業人材育成プランの策定経過



# 耕稼春秋について

加賀藩は農書の宝庫とされていますが、「<sup>こうか しゅんじゅう</sup>耕稼春秋」はその最高傑作とされています。全7巻で、年中行事、稲の種類、商品作物の種類、農業技術、農機具について記されています。単なる農業技術を記したのではなく、農業経営の指導書です。

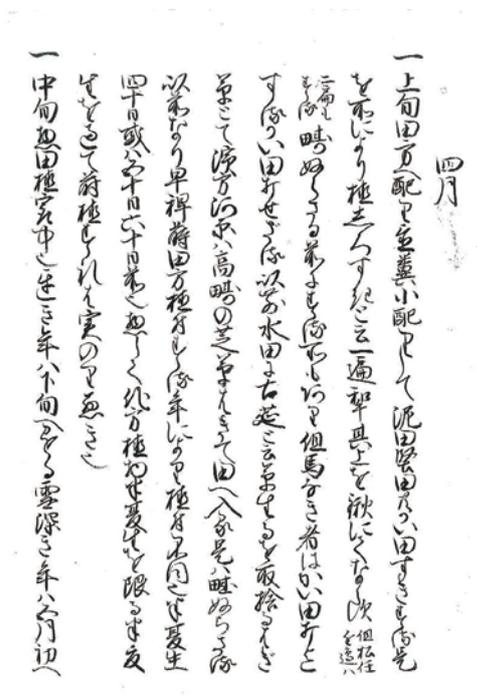
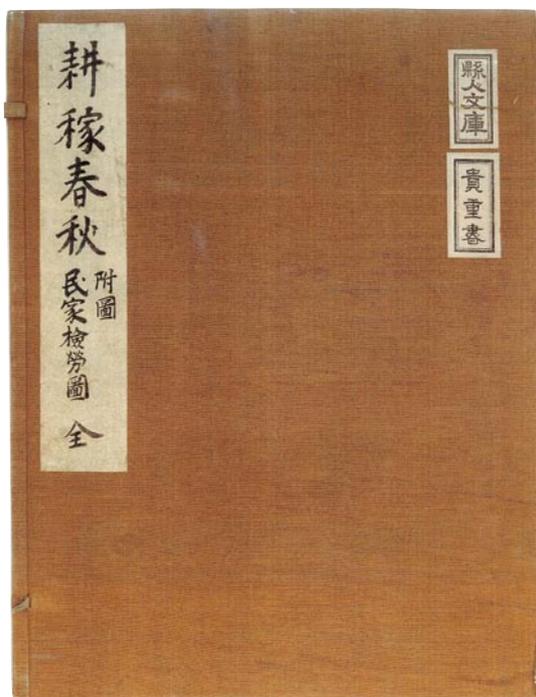
- 耕稼春秋以外の加賀藩の農書
  - 農事遺書 (1709) (鹿野小四郎)
  - 私家農業談 (1789) (宮永正運)
  - 村松家訓 (村松標左衛門)

「耕稼春秋」は、加賀藩の十村役<sup>とむらやく</sup>（加賀藩の農政組織で大庄屋に相当）土屋又三郎（?～1719年）が農業指導を行うために作成したものであり、土屋又三郎は加賀藩の農業の父とされています。

- 5代藩主 前田綱紀 (1645 - 1724) の時代
- 耕稼：土地を耕して農作物を作ること。耕作

土屋又三郎は、現在の金沢市神田在住で、父親の土屋勘四郎が辻斬りにより殺害された後、20歳で十村役に就くと、自ら田畑に繰り出し、村の年寄りたちに教えを請い自ら農業を極めました。

- 耕稼春秋以外の土屋又三郎の著書
  - 金城盛衰記
  - 加越能大路水経



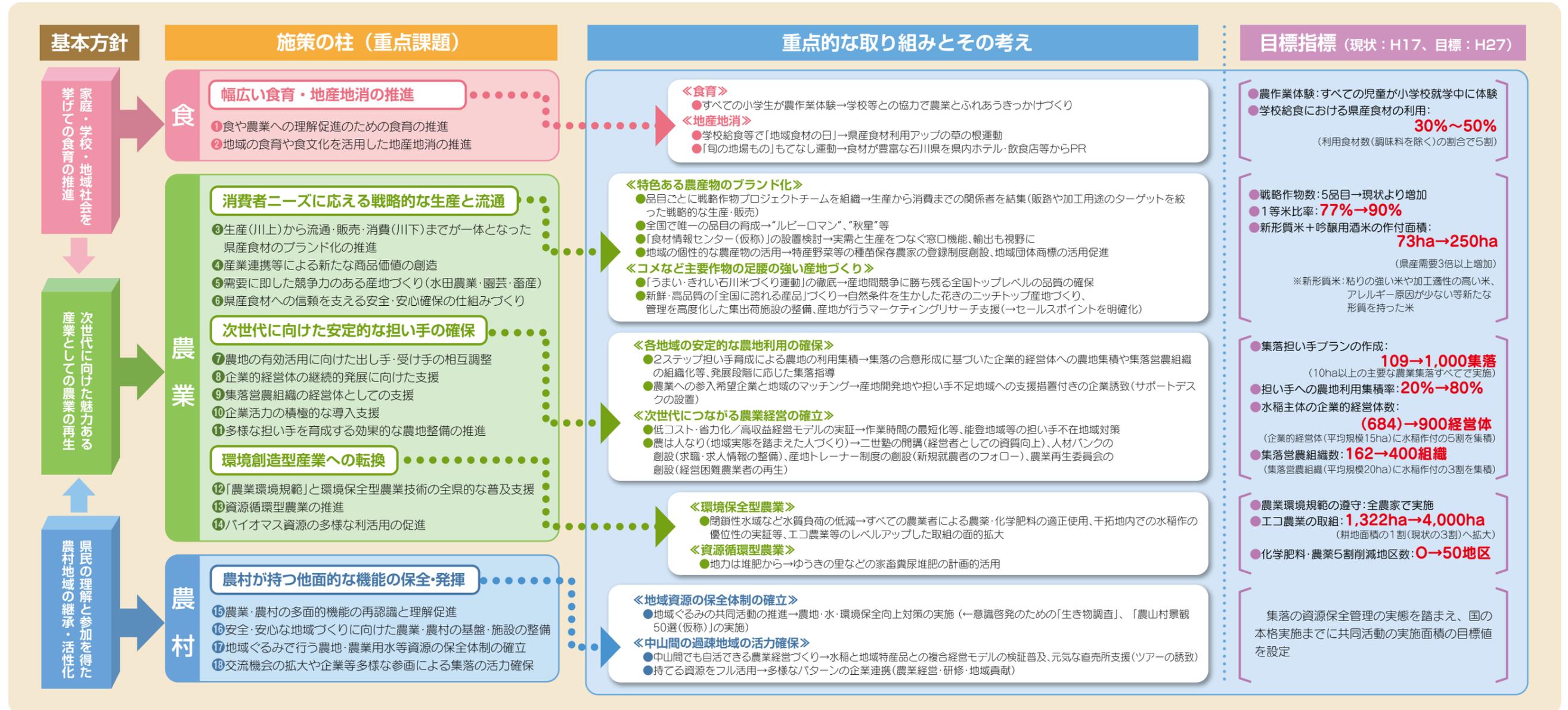
「耕稼春秋」（石川県立図書館所蔵）

# 新たな「いしかわの食と農業・農村ビジョン」の概要 ～“元気いっぱい！いしかわ農業”の展開～

## ◆食と農業・農村を取り巻く環境、国の動き

- 食の外部化の拡大、流通の多様化等により、コメ消費は更に減少、野菜等の生産は大規模産地や輸入品との競合により低迷。
- 県内の農業を主たる仕事とする者の8割は60歳以上、中核農家（4,350戸）のアンケート結果（回収率35%）では、約5割が後継者がいないと回答。離農、混住化の進展により耕作放棄地の増加や集落機能の低下が懸念。
- 国は、平成19年度から担い手施策を認定農業者や法人化を目指す集落営農組織に重点化。併せて、地域住民が共同で行う農地・農業用水等の環境保全支援対策を新たに施策。

## ◆取り組むべき施策の体系（5つの柱と18の課題）



## ◆効果的に推進するための留意点

